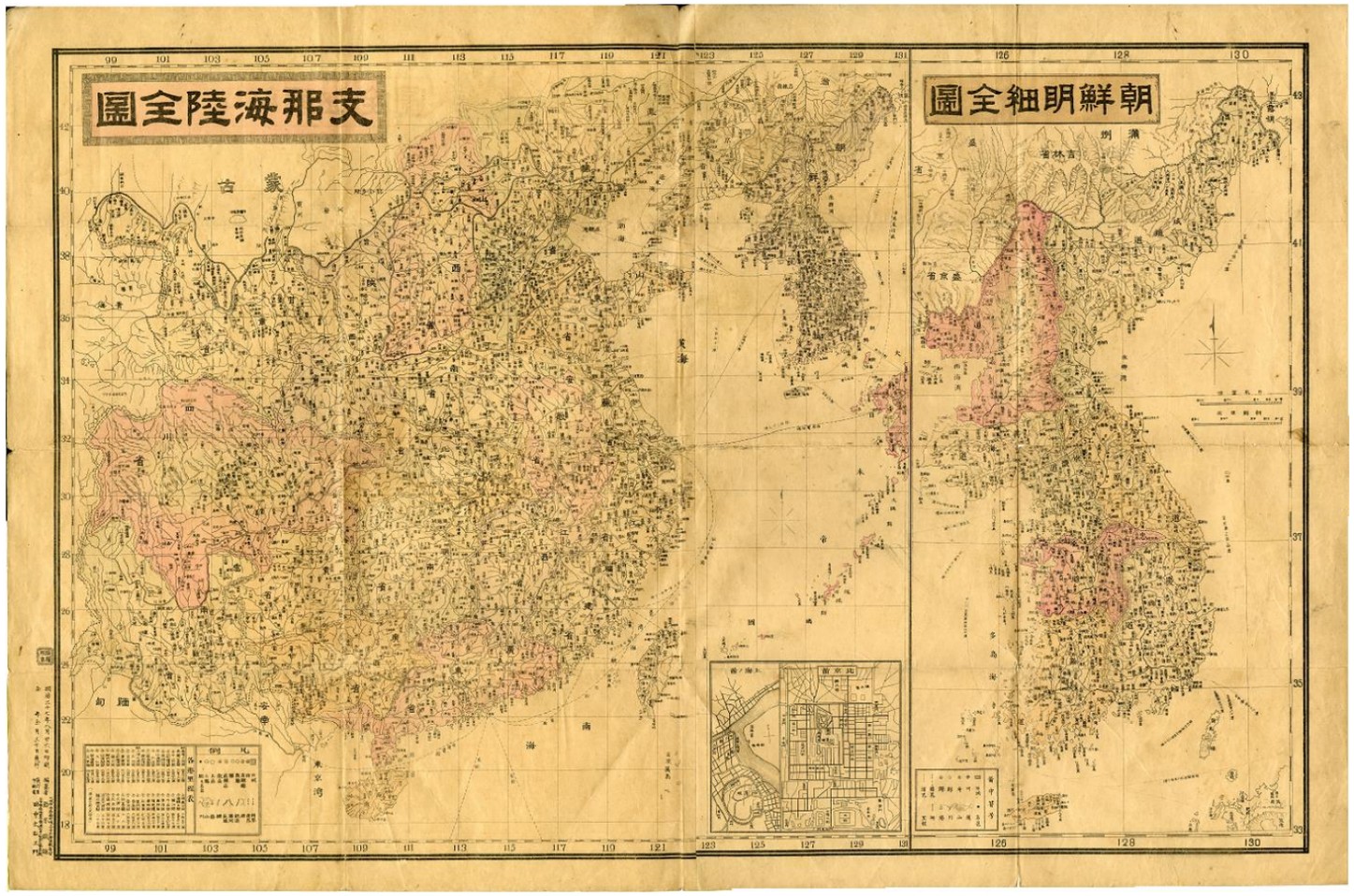
日清戦争中に発行された朝鮮・中国地図



1894 年（明治 27）「(朝鮮明細全図支那海陸全図)」

松田三左衛門家文書（当館蔵）デジタルアーカイブへ

解 説

朝鮮では、**日朝修好条規**締結後は閔妃政権が親日政策をすすめました。それに反発する形で 1882 年（明治 15）に壬午軍乱が引きおこされると日本は済物浦条約を締結して朝鮮侵略を拡大していきます。その後、閔妃政権は親清政策に転じ、事大党と呼ばれる守旧派を形成します。

一方、金玉均らの親日派で形成される独立党は、1884 年（明治 17）の清仏戦争が起きて清の影響力が後退するのに乗じて日本の支援のもとでクーデターを起こしています。日本も勢力拡大の好機としてこれに加担しました（甲申事変）。しかし事大党がただちに清に救援を求め、救援に来た清軍のためにクーデターは失敗に終わります。悪化した日清関係を打開するため、日本は伊藤博文を天津に派遣し、1885 年（明治 18）4 月に天津条約が結ばれ、日清両国の朝鮮からの撤兵や朝鮮出兵の際には互いに事前通告することが約束され、日清両国の衝突はひとまず回避されました。

しかし、甲申事変の失敗により日本は朝鮮国内での親日派育成による勢力拡大の可能性を失うとともに、高まる世論を背景に武力で清と対決する道を模索することになります。

1894 年（明治 27）、民間信仰を基にした宗教である東学を信仰する農民軍が朝鮮半島南部で蜂起しました（**甲午農民戦争**）。朝鮮政府は鎮圧のため清に出兵を求めましたが、日本政府も日本人保護を目的に出兵しました。農民反乱は鎮圧されましたが、その後も日本は朝鮮政府に内政改革を要求しました。清側がこれを拒絶したため、7 月に日清両軍が衝突、**日清戦争**に発展しました。

資料の注目ポイント

1894 年（明治 27）8 月 30 日、日清戦争中に発行された朝鮮と中国の地図です。両国について詳細に描かれています。また、中国に関しては地図に示されている範囲が現在の中華人民共和国の領域とは異なっている点も注目されます。

関連資料

名称	概要	備考
「(朝鮮明細全図支那海陸全図)」	松田三左衛門家文書（当館蔵） A0169-02300	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-326847-1-p1

参考文献

・『国史大辞典』　吉川弘文館
・『日本史（ＡＢ共通）　教授資料　研究編』山川出版社